

SDGsについて考えてみよう

第11回 目標16 平和と公正をすべての人に
全12回連載 目標17 パートナーシップで目標を達成しよう

宗田 鯉男(そうだ がつお):
 略してSDGsです。今回
 で全ての目標に関する説
 明が終わります。一緒に勉
 強していきましょう!



二次元コードも
 ご活用ください。



第2回から、日本製紙グループに関わりの深いSDGsの目標を順次取り上げています。今回は、CSR(企業の社会的責任)の基本であるコンプライアンスに関する目標16と、SDGsをスピーディーに実施する上で不可欠とされる、パートナーシップに関する目標17について説明します。

16 平和と公正を
 すべての人に

目標16 「持続可能な開発に向け、平和で法により守られた世界を構築する」

日本製紙グループと関連するターゲット

- 16.2 児童労働の撲滅
- 16.3 法の支配の促進
- 16.5 汚職や贈賄を大幅に減少させる



目標16とターゲット全文
<https://bit.ly/33gdWvM>
 (PDF)

17 パートナーシップで
 目標を達成しよう

目標17 「持続可能な開発のためにグローバル・パートナーシップを強化させる」

日本製紙グループと関連するターゲット

- 17.16 持続可能な開発のためのパートナーシップを強化
- 17.17 産官学、市民社会とのパートナーシップの推進



目標17とターゲット全文
<https://bit.ly/2ZqZeQd>
 (PDF)

背景

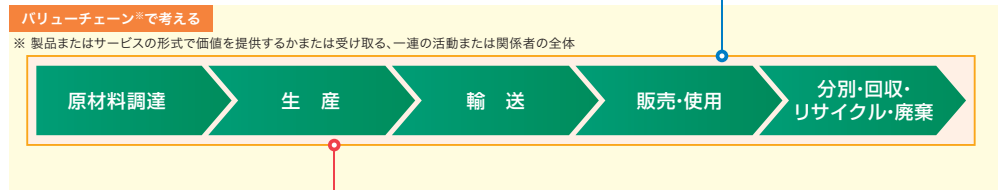
目標16は、平和の確保および、全ての人が法の下で公平に扱われるようにするなど、SDGsを達成するに当たり、前提となる目標です。また、目標17は目標1から16を実施するための手段について示されています。SDGsで掲げる目標は意欲的なものが多く、達成に当たっては一つの組織だけでなく、産官学、NGO、市民などが国内外で協働して取り組むというパートナーシップが奨励されています。

日本製紙グループの取り組み

当社グループは、コンプライアンスの周知・徹底を図っています。また、国内外のさまざまなパートナーシップに参画し、持続可能な開発に向けた取り組みを推進しています。

プラスの影響 SDGsの推進に向けた、積極的なパートナーシップへの参画。

強化 さまざまなパートナーシップへの参画(17.16、17.17) **事例** コラム2



マイナスの影響 不法行為。

低減 **事例** **コンプライアンス(16.3、16.5)** **コラム1**

目標16と17は、当社グループの重視する価値「Challenge」「Fairness」「Teamwork」にもつながりますね!

当社グループの重視する価値については第8回でも紹介しました
<https://bit.ly/2Ypf0OV> (PDF)

コラム1

コンプライアンスへの取り組み

当社グループでは、社員が守るべき行動憲章を2004年に制定し、それに基づき各社にて行動規範等を制定しています。日本製紙のCSR本部がまとめ役・先導役となり、これらの周知徹底を通して法令や社会規範に則った企業活動に努めています。

一例として、コンプライアンスの周知徹底を図る研修を継続的に実施しています。社外の専門家を招聘し、グループ討議などを活用しながら、各職場に合った実践的な研修をしています。



役員向けのコンプライアンス研修



日本製紙グループ行動憲章・
 日本製紙行動規範
<https://bit.ly/2MNxH8f>

世界各地で腐敗行為を防止

企業活動での贈賄などを含む腐敗行為は、持続可能な開発にとって大きな障害となり、社会構造をゆがませる一因となっています。そのため、近年、世界各地でこれらの分野における規制の整備が急速に進んでいます。

これを受け、日本製紙は、企業グループ理念と行動憲章に基づき、関係各国における贈賄防止と競争法遵守の一層の徹底を図るため、「公務員に対する贈賄防止基本方針」と「競争法遵守基本方針」を制定しています(2017年11月)。

コラム2

持続可能な開発に向けたパートナーシップの構築

日本製紙がすでに参画しているさまざまなパートナーシップの例を紹介します。

ビジネスの力で持続可能な世界を実現 **国連グローバル・コンパクト**

2004年11月に国連グローバル・コンパクトの人権・労働・環境・腐敗防止の4分野にわたる10原則を支持することを表明し、グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン[®]での取り組みに参加しています。この中で、持続可能な開発に向け、業種を超えて参加企業が学習、協働を進めています。SDGsに特化した分科会もあり、目標達成の加速に向けた活動を行っています(グローバル参加企業約9,900社、うち日本企業約330社)。

※ 国連グローバル・コンパクトのローカルネットワーク

関係者が連携して海をきれいに **クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス(CLOMA)**

地球規模の課題である海洋プラスチックごみ問題の解決に向け、プラスチック製品の持続可能な使用や、代替素材の開発・導入を推進するプラットフォームです。

化学、製紙、食料品、小売業など業種を超えた約250社・団体が参加、当社はアライアンスの運営を担う、幹事会社として参画しています。

技術を連携して持続可能な社会を実現

ナノセルロースフォーラム(NCF) **NEDO(新エネルギー・産業技術総合開発機構)※プロジェクト**

持続可能な開発に大きく貢献することが期待される新素材「セルロースナノファイバー」の実用化・普及を目指す、オールジャパン体制での産学官のコンソーシアムです(会員数約350)。協働して標準化を進めるほか、国際学会にて技術共有などを進めています。

化学会社などと協働で、非石油由来原料への転換を目的とした「木質系バイオマスから化学品までの一貫製造プロセスの開発」などのプロジェクトに参加しています。

※ NEDO: New Energy and Industrial Technology Development Organization. 日本のエネルギー・環境分野と産業技術の開発推進を担う国立研究開発法人

SDGsが記載されている「アジェンダ2030」の文書では、目標実現の実施方法として、パートナーシップの重要性が強調されています。世界共通の目標なので、さまざまな関係者と協働しやすい点も特徴ですね! 皆さまからのご意見も募集しています。アンケートでお答えください。

アンケート
<https://bit.ly/2P9DcMr>